

令和元年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## 聖泉大学 実施報告書



**実施主体** 聖泉大学別科助産専攻

**実施内容** 1、5月11日(土):ショッピングモールで市民への啓発運動

2、8月24日(土)学生担当パパママクラスでの啓発運動

3、大学オープンキャンパス・臨地実習での啓発活動

### ①事前に取り組んだ内容

- ・入学前に「幸せになる脳は抱っこで育つ。」と「子どもの脳を傷つける親たち」の課題図書を読み、マルトリートメントとスキンシップの大切さについて各自学んだ
- ・入学後は体罰についてディベートを行ったり、子どもの虐待の実態や予防法について調べ学習した。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

#### 1. ショッピングモールで市民への啓発運動

(看護協会看護フェア横のブース活用)

- ・不適切な関わりが子どもの脳へ影響するポスター掲示
- ・オキシトシン(幸せホルモン)に関するポスター掲示
- ・未来の子どもたちへのメッセージボードへの記載
- ・表面に児童相談所全国共通ダイヤル、裏面に学生パパママクラスの案内を記載したオリジナルしおりの配布
- ・オレンジ色の風船の配布
- ・リアル赤ちゃん人形の抱っこ体験

#### 2. パパママクラスでの啓発運動

プログラムの中の一つとして、赤ちゃんの泣きの特徴(泣きのピーク等)について説明し、抱っこの大切さやどうしても泣き止まない時の対応について説明した。また、揺さぶられ症候群については、人形を使って実演しながら説明を行った。

#### 3. 大学オープンキャンパス・臨地実習での啓発活動

- ・オープンキャンパスでは、オリジナル作成したオレンジリボン運動ポロシャツを着用し、来校された高校生、看護学生や社会人、その家族に対して本学助産専攻のオレンジリボン活動の紹介を行った。
- ・臨地実習では、妊娠中から、赤ちゃんとのかかわり方や愛着形成について伝え、伝えられていない父親にはパンフレットを通じて赤ちゃんの特徴について理解を促した。

### ③活動を終えて・・・

妊産婦に対するマルチリトメントを予防する関わりとして、妊娠中から赤ちゃんの特徴について母親だけでなく父親に対しても伝えていく必要性を感じた。また、産後赤ちゃんの泣きに困惑する母親が多い現状から、新生児から乳幼児期にかけて赤ちゃんの泣きの特徴について話をすること、生後には、それぞれの赤ちゃんの特徴を踏まえたきめ細やかな指導が大切であることを感じた。子どもの虐待の現状を広く社会に知らせ、子どもを救うため一人ひとりにできることを考え、妊娠期からの予防的関わりができる助産師としての活動が必要だと感じた。そのために、今後もオレンジリボン運動を通して社会全体で子どもへの不適切な関わりや虐待をなくすことを目指していきたい。



【聖泉大学】 <https://www.seisen.ac.jp/>